

## 子どもが安全に暮らせる まちづくりを目指して

浦添・西原地区安全なまちづくり推進協議会（会長：上間明西原町長）が4月27日、町中央公民館で行われ、西原中学校区を「安全なまちづくりモデル地区」に設定しました。同モデル地区は安全・安心なまちづくりのため、地域を挙げて意欲的に活動することを目的に設定されます。西原中学校では以前より、自主的に青少年の指導活動に取り組む「親父の会」が結成され、スクールエリア対策校の指定も受けています。今後は防犯パトロールや「こども110番」の設置などを通じて、青少年の健全育成と運動した地域の防犯活動が図られます。また会議では、「子どもの安全・安心対策」が重点目標に指定され、「ちゅうさん運動」を継続して推進し、安全なまちづくりを展開することが決議されました。



## 赤十字の社資にご協力ください

国境・宗教・人種を超えた幅広い人道的支援に取り組む日本赤十字社の社資（活動資金）募集にあたり、西原町赤十字奉仕団（委員長：城岡富子）が5月11日、社資募集出発式を行いました。出発式では上間町長が「多くの方の社員加入を目指して取り組み、博愛の心と支援の輪を二重三重にも広げて、多くの社資を確保できるよう願っています」とあいさつし、社資の募金第1号を手渡しました。赤十字社資は5月から募集が始まり、各地域で支援の呼びかけを行っています。



## 初夏の夜に響き渡る「梅の香り」 —「梅の香り」うた遊び大会—

第8回「梅の香り」うた遊び大会（主催：「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会・小那覇自治会）が5月1日、小那覇児童公園特設会場で開催され、町内外から15組が出場し、琉球民謡「梅の香り」を披露しました。夕方から始まった大会には多くの方が訪れ、日が暮れるころには道路まで観客が溢れかえる盛況ぶり。日ごろの練習の成果を発揮する出場者の歌声に、会場は酔いしれていました。最優秀賞は今回参加者中、最年少の大城綺織（きおり）さん（13）＝糸満市＝が受賞し、表彰式では「この嬉しさをお父さんに伝えたい」と喜んでいました。



受賞者の皆さん（下）と、最優秀賞の大城綺織さん（上）

## 遺骨収集現場に階段の設置を —工事費を寄付—

沖縄戦で犠牲となった遺骨の収集現場となっている壕跡（宇幸地）に、仮設階段を設置するための工事費の一部として、那覇西ロータリークラブの石川正一さんらが4月30日に来庁し、国際ロータリー第2580地区沖縄分区分からの寄附として、寄附金25万円を上間町長へ手渡しました。

現場は昨年8月から遺骨収集ボランティア団体ガマファヤ（具志堅隆松代表）が発掘を行なっている場所で、沖縄戦の激戦区、西原町を象徴するように多くの遺骨が発掘されています。町教育委員会は、本寄付に自主財源を上乗せして早急に遺骨収集現場へ仮設階段を設置し、現場見学会等の事業を実施するとしています。事業の詳細については町教育委員会生涯学習課（☎945-5036）へお問い合わせください。



## 自治会加入促進ののほりを 寄贈されました

4月23日、内間公民館で「自治会加入」促進を呼びかけるのほりの寄贈式が行なわれました。大典寺西原浄苑（字内間）よりののほり20枚の寄贈を受けた内間自治会の大成盛孝会長は、「のほりを地域内に設置し、自治会への加入促進を地域ぐるみで取り組みたい」と、抱負を語っていました。



## 「小波津三郎さんが株出1位」 —平成21/22年期中部地区 さとうきび競作会表彰式—

さとうきびの日（毎年4月4日曜日）の関連事業として、中部地区のさとうきび競作会の表彰式が4月26日、うるま市石川保健相談センターで行われました。表彰式に先立って、1月13日に中部地区審査会が実施され、地区内の市町村から推薦された春植、夏植、株出のほ場計11点が審査されました。その結果、宇小波津の小波津三郎さんが出品したほ場が、300坪当たり単収11,990kg、甘蔗糖度重量2,574kgの成績を残し株出部門で1位となり、表彰を受けました。



## 子どもたちの手作り こいのぼりが上がった！

子どもの日を前にした4月27日、第3回手作りこいのぼり掲揚式（町社会福祉協議会主催）が町中央公民館で開催され、町内の4保育園と1幼稚園の子どもたちを含めた約200名が参加しました。雨天により急きょ会場が大ホールに移され、プログラムも変更された掲揚式でしたが、子どもたちが力を合わせてこいのぼりを舞台に揚げると、参加者から大きな歓声が上がりました。

